

中部教育事務所だより

発行所 群馬県教育委員会事務局
中部教育事務所
発行人 荒井 学
発行日 令和4年3月17日
〒371-0051 前橋市上細井町2142-1
Tel (027) 232-6511

「変わっていくこと、変わらないこと、大切にしたいこと」

中部教育事務所 管理主監 春田 晋

各学校の校長先生方をはじめとする教職員の皆様、各市町村教育委員会の皆様の御理解と御協力により、児童生徒の学びを止めることなく、1年を乗り越えてこられたことに、深く感謝いたします。

令和3年度も、様々な制限がありましたが、そのような中でも、ICTの環境整備や授業での活用等が行われ、時代に対応するための取り組みが着実に進んでいることを訪問を通して実感しました。

自分が教職に就いた30年ほど前、職員室で先生方がワープロやPCを使い、ワークシートや学級通信等を作成する姿を見て、「自分にもできるのか…」と不安になりました。今では、毎日PCを使うことが当たり前です。また、ホワイトボードの活用が始まったころ、様々な意見がありましたが、いつの間にか工夫して活用されるようになりました。導入の際には、様々な不安や課題があったとしても、学校や先生方の努力と工夫により、今は当たり前のことに変わってきました。

ICTの活用も、授業スタイルや児童生徒の新たな学び等を着実に生み出し始めています。一方で、授業を進める上での不安や課題を感じている方がいらっしゃるのも事実です。例えば、画面に一瞬で映し出される児童生徒の考えや思いをどう見極め、学びをどうつなげて深めるかといったことです。

先生方はこれまでも、授業の「ねらい」を基に、発言や文章で表現されたことだけでなく、それまでの過程、表情、視線、つぶやき等、様々な情報を結

び付けて児童生徒の真の姿を見極め、意図的な発問や指名をしたり、新たな手立てを用いたりして、学びを深める活動につなげてきました。これは、教師にしかできない重要な役割であり、ICT活用が教師を支える手段として一層充実していても、授業の本質として今後も変わらないものです。だからこそ、児童生徒一人一人をよく見て知る大切さを、あらためて感じています。

時代は、急速に変化していきます。新型コロナウイルスの感染拡大のように、予想もしていないことも起きます。そのような中で、変わらないこと、大切にしたいことに気づき、確認することのできた1年となりました。

中部教育事務所では今年度も学校や先生方のニーズに応じられるよう、「先生のためのサポート研修」等を実施しました。今後も支援や手助けができるよう、学校現場に足を運び、学校の様子を聞かせていただきたいと思います。その上で、中部教育事務所として、情報共有を一層充実させるとともに、新たなことにチャレンジしつつ、学校や市町村教育委員会の皆様とともに歩んでいけるよう努めていきたいと思っています。



【総務係】

①各種手当の認定要件等に変更があった場合は必ず事務職員に申し出てください。

【例】転居、家賃の変更、扶養親族の増加（父母の収入減、この出生等による）、扶養親族の所得増（108,333円超/月）

②通勤途上や勤務時間中に、医療機関を受診しなければならない怪我をした場合は、直ちに校長、副校長、教頭等に報告してください。「公務災害」の対象となる場合があります。

【学校教育係 人事】

働き方改革のヒント～引き継ぎ業務（個と組織としての取組）

働き方改革を進めるためには、「引継を的確に行う」ことが効果的です。

個々の取組としては、自分自身が、「この資料に助けられた」「ここがわかりづらかった」といった経験を生かしながら、次年度に向けた引継作業を工夫しましょう。仕事の手順やポイントを簡潔にまとめておく、今年度の資料を時系列で整理する等ができそうです。

また、学校組織としては、引継資料やデータの管理運営の仕方がポイントの一つです。データの保存フォルダが職員に分かりやすい配列や分類になっているか、紙資料の保管場所が誰にでも見つけやすいか、不要な物品の処分ができていないか等の点を振り返ることで、引継業務の改善・充実が図れそうです。

個々と学校組織の両方から、今年度のまとめと次年度の準備を進めておくのはいかがですか。

チーム方式の初任者研修～初任者研修を通じた学校の活性化

チーム方式の初任者研修では、拠点校指導員、校内教科指導教員等の先生だけに初任者の育成を任せるとはならず、学校全体で初任者を支え、育てていく意識が大切です。初任者研修では、ベテランの先生と一緒に授業づくりや分掌の仕事を行うことで、指導や対応の仕方を学べます。

また、校内にメンターチームをつくることで、初任者の困り感に寄り添い、悩みや課題を協働的に解決していくことができます。このようなことは、初任者だけでなく、若手や中堅の先生方の職能成長、ベテランの先生の経験の伝達・活用にも繋がります。初任者を育てることを学校全体の活性化に繋げていきましょう。



【生涯学習係】

『家庭教育支援』について

家族の多様化や地域のつながりの希薄化、さらにコロナ禍もあいまって、子育てや家庭教育に不安や困難を抱えている家庭が増えています。

「家庭教育」は「全ての教育の出発点」と言われており、保護者がその子供に対して行う教育を指します。家庭教育は、子供が基本的な生活習慣や生活能力、人に対する信頼感、豊かな情操、基本的倫理観や社会的マナーなどを身につけていく上で重要な役割を果たしており、「家庭教育支援」とは、その家庭教育が行われる環境をサポートするものです。

具体的には、『保護者向けの家庭教育講座等の開催』『保護者同士の交流や、親子のふれ合いの場づくり』『悩みを抱えた保護者への個別相談』などの活動があげられ、学校のPTA主催の研修会や公民館の子育て講座などでも行われているかと思えます。群馬県においても、2016年から「ぐんまの家庭教育応援条例」が施行され、保護者同士の交流や体験的な学びの機会として、ぐんまの親の学びプログラムを活用した「ワクワク子育てトーク」の実施や、「家庭教育支援チーム」の登録支援も進めているところです。

中部教育事務所生涯学習係では、家庭教育支援に関する講座の企画・運営、講師の選定や派遣、家庭教育支援チームの登録等に関する相談を受けております。ぜひ、お気軽にお問い合わせください。

【学校教育係（指導）】

令和3年度ICT活用促進プロジェクトモデル校事業～実践を振り返って

今年度、管内7つの小中学校がモデル校として、授業改善や校務の効率化等、様々な先進的な取組をしてくださいました。今回は各校のリーダーとしてご活躍された先生方に、一年の取組を振り返っていただきました。ぜひ次年度のICT活用の参考にしてください。

【拠点校】

榛東村立榛東中学校

研修主任 新井 英雄 先生

今年度、本校では、授業をデザインする→授業を実践する→授業研究会で子どもの学びを検証するという授業研究サイクルを各学期ごと3回の代表授業を軸に実践しました。授業をデザインするために指導案をデザインシート形式に変更し、本校スタンダードである5つの視点を縦横に関連させました。そして活用・探究型授業における思考の可視化にタブレット端末を活用することは、思考力等の育成に大きな効果があることが実証されました。さらに授業研究会にもICT機器を活用して子どもの学びを捉え、それを基に授業を検証することもできました。榛東中チームとして「子どもの学びに学ぶ授業研究」が創造されつつあります。教員が本気になって授業研究に向き合い、わくわく楽しみ、その手応えから充実感を感じる令和3年度でした。



【実践推進校】

前橋市立桂萱中学校

教務主任 高橋 睦聖 先生

今年度は、授業における学習道具の一つとしてのタブレット端末の活用に重点を置き授業実践を中心に研究しました。全教科で実施し、主として生徒が主体的に学び合える交流活動づくりの一助としてタブレット端末を活用しました。これにより、多くの意見に触れる機会が増え、生徒の思考力を高めることができました。なお、リモートでの公開授業を実施しましたが、生徒は他の人の意見を参考に自らの考えを深めるなど短時間での意見交流を個々のタブレット上で行い、これまでの研究の成果が伺えました。



前橋市立桃瀬小学校

研修主任 石田 磨里 先生

今年度の校内研修を終えて感じたことは、ICTが先生方や子供たちにとって身近な道具になってきたということです。ノートや鉛筆のように便利で、学習の効率化が図れるときに使うようになりました。

また、「何のためにICTを使うか」を考えて授業改善に取り組んだことで、主体的な学び、対話的な学び、協働的な学びが意識されるようになりました。

今後も、ツールとしてのICTを効果的に活用していきたいと思えます。



伊勢崎市立北小学校**情報推進主任 綿貫 光希 先生**

本年度からタブレット端末や大型提示装置が整備され、授業や学校事務など様々な場面でICTの活用を試みました。

初めてのことで戸惑うことも多くありましたが、ICT活用推進班を中心に試行錯誤を繰り返し、職員間で週1回の研修や定期的な情報交換を行っていくことで徐々に活用が広がっていきました。

今後も協働的な学びや個別最適な学びが実現できるように、研修と実践を重ねていきたいと思っています。

**渋川市立古巻小学校****情報主任 大塚 純之介 先生**

本校では、校長の「まずは使ってみよう」という考えの下で各教員が活用方法を探ってきました。タブレット端末を使う授業では児童の興味関心が高まりました。さらに、調べたり、学習の成果をまとめたりする活動の幅が広がるなどの成果が見られました。

反面、低学年での活用や、全教員の指導スキルを高めるための研修の充実などの課題も明らかになりました。

今後は、効果的かつ意図的に使えるようにするための年間指導計画の改善や情報モラル教育の充実など、より良い活用に向けて実践を続けていきます。

**吉岡町立吉岡中学校****研修主任 野口 優実 先生**

「校務におけるICT活用」と「ICT活用を通しての授業改善」の2点で研究を進めました。

校務においては資料のペーパーレス化を中心に活用を進め、業務の効率化を図ることができました。

授業改善においては、1人1台端末の活用を軸に全職員で研究を進めました。多くの授業でICTが活用され、生徒の主体的な学びを促すことができました。

**玉村町立中央小学校****教務主任・研修主任 木村 貴幸 先生**

本校では、学年中心の日常的・協働的な研修と、歩調を合わせる研修の2つの形態で、ICT活用の促進に取り組みました。学年の実態に応じてGoogleWorkspaceを工夫して利用し、情報交換によって他の学年や教科での応用も見られます。児童も1人1台端末の利用に慣れ、昨年度末に想定した活用の実践が、半年から一年程早められています。

今年度の取組を土台にして、より効果的な活用や子どもの資質の育成につながっていきます。

